

すずらん台 地域ビジョン

平成23年4月作成

すずらん台町づくり協議会
すずらん台地域ビジョン策定委員会

魅力的で誇りの持てる町づくりを実現することをめざし、平成22年2月すずらん台地域ビジョンの策定にあたって住民の意見が反映できるよう幅ひろい人たちに集まっていただき『すずらん台地域ビジョン策定委員会』を立ち上げました。

平成22年春に全住民に対し「すずらん台まちづくりアンケート」を実施しました。回収率は約60%ではありましたが、その結果を尊重することと、いたしました。

策定委員会では委員全体会議で住民の意見を重視しなくてはならないとのことから、実施済みアンケート結果の上位6項目をテーマと定め、委員を6グループに分けそれぞれのテーマに従ってワークショップを行いました。策定委員会開催日は下記の通りです。

記

平成22年	6月27日	13時30分～
	7月25日	13時30分～
	8月22日	13時30分～
	9月26日	13時30分～
	10月24日	13時30分～
	11月28日	13時30分～
	12月26日	13時30分～
平成23年	1月23日	13時30分～

将来のすずらん台は

『笑顔が絶えない活力のある

町づくり・人づくりをめざして』

を理念に

6つのテーマ

と

20の行動計画

をもって

『すずらん台地域ビジョン』

とする

はじめに

すずらん台地区は昭和50年住宅開発の許可が下り、昭和55年から入居が始まった地域である。世帯数の増加にともない発展的に4つの自治会に分かれる事となり現在に至っている。

現在1500世帯、人口約4,000人の住宅団地であり、すずらん台町づくり協議会を中心に各自治会・諸団体の協調がはかられている。

『すずらん台地域ビジョン』の達成に向けては町づくり協議会が推進をしていくことが重要であるが、全住民が意識を持ち、いかに参画してもらえるようにしていくかにかかっている。



(サロン「きずな」 平成22年4月 市民センター隣に開所しました。)



(地域の皆様が利用する コミバスとドライバーのみなさん)

テーマ1 「高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉の町」

すずらん台には病院や商業施設や商店が少ない。住民の高齢化が目立ってきている。高齢者が今後も住み続けたいと思う町を目指すには、暮らしの実態をきめ細かく把握することが大事である。本テーマは中長期的に取り組む。

- 1) ライフサポートクラブの認知度の向上を図るとともに利用会員を募る。
 - ・認知度については反復した広報を行い、住民に活動内容を都度紹介していく。
 - ・利用者から定期的にアンケートを募り、ライフサポートクラブの内容充実努める。
 - 2) 救急医療情報キットの配布
 - ・地域に密着した活動を通じ、又行政が把握する高齢者情報をもとに救急医療情報を地域で整備する。
 - ・必要とする当該者へキットの配布。
 - 3) 小規模施設の誘致（グループホーム等）
 - ・関連する業者・団体等と協調を行い、すずらん台に誘致する。
-

テーマ2 「道路や公共交通などの利便性が高い町」

当該団地の公共交通機関は、三重交通バスのみである。現状バスの運行時間・運行頻度等からみて不便な交通条件にある住宅団地であることは否めない。この条件下で如何に利便性の高い町づくりを目指すかを検討した。

- 1) 公共交通の利便性を高める。
 - ・住民の移動を活性化する。 ・他地域からの人の流れを活性化する。（訪問者・移住者）
遊休地の有効活用 （人が集える多目的広場を創り出す）
 - ・当該活用委員会との連携を図る
 - ・桜樹の植栽（景観） ・森林公園をつくる ・育苗施設の開設 ・子どもの遊び場、自転車広場をつくる
 - ・人が集まり、イベントが開催できる広場をつくる
 - 2) コミュニティビジネスの創出（サロンきずなを拠点として）
 - 以下の課題を検討する。
 - ・地域ビジネスを生み出す。 ・商品・品揃えの開発（他地域との連携）
 - ・集客計画（人の流れを予測、事業規模の予測） ・行政の協力を得る。（ソフト面からの産業情報）
 - ・地域でのイベントを計画（イベントに合わせた人の流入、訪問）
 - 3) 検討委員会を開設する。

町づくり協議会・部会（地域交流部会）・きずな運営委員会・遊休地活用実行委員会
その他の団体等の参加を得て目標達成のため検討委員会をつくる。
-

テーマ3 「商業・サービス業が盛んで買い物に便利な町」

地域に小売店が少なく日用品、食料品購入に困っている一人暮らしの人、高齢者、移動手段のない人が増えることが今後予想される。安全で、安心して暮らせる生活環境の整備が求められる。

1) 商業施設の誘致及び充実に取り組んでいきます。

- ・すずらん台に商業施設を増やし、これの充実と利用度アップをはかる。

2) 買い物の便利な町づくりを目指します。

- ・移動販売方法の提案
- ・きずなでの物品販売の拡充、西集会所にも物品販売の拡充を図る。
- ・団地周辺の既設商業施設で行っているお買い物代行サービス・宅配サービスを広く住民に紹介する。
- ・お買い物客の送迎を行っている商業施設には継続して送迎サービスを依頼する。
- ・ライフサポートクラブの継続・充実を図る。

テーマ4 「災害に強く犯罪や事故の無い安心・安全な町」

当団地は、国道165号線が生命線であり、災害発生の際に国道が寸断された場合当該団地は孤立する。その対策を立てておかなければならない。同時に日常の防犯・事故対策を住民に周知徹底する必要があると考える。

1) 警報装置の設置を図る。

町づくり協議会にて、すずらん台全域がカバーできる警報装置の設置を進める一方名張市と協働で防犯マップを作成する。

2) 計画的な備蓄をする。

町づくり協議会主導で各自治会とともに名張市へ働きかけを行いながら、水・食料・毛布などを計画的に地域に備蓄していく。

3) 団地内での交通事故撲滅を図る。

- ・危険個所の周知徹底・看板設置。
- ・スピード出し過ぎによる交通事故防止の啓蒙活動を図る。
- ・信号機設置を関係機関に働きかける。

4) 一人暮らし、高齢者家族への支援体制を構築する

名張市の「災害時要援護者支援体制」の構築をさらにおし進め、要援護者の見逃しが無い地域の体制づくりを目指す。

5) 防犯活動の充実

青色防犯パトロール隊・散歩パトロール隊の活動をより充実させる。住民へは、犯罪状況・事故状況の情報提供と防犯意識つけを図っていく。

テーマ5 「子育てがしやすく子どもたちが明るく育つ町」

当団地の将来像を人口構成から考える。今後急速に人口構成の主体は60歳以上に変位し高齢化した町となることが予想される。活力ある町とするためには、若い世帯の増加が求められる。

若い世帯が魅力ある町と認め、住んでみたいと思う町づくりが必要である。

1) 公園整備を充実させる

・既存公園の一時的な再整備を行う。 ・特徴ある公園について、住民からのアンケートを実施する。

2) 子育て情報の発信

・町づくり協議会ニュース・市民センターだよりに子育て情報欄を設ける。

3) 中学生・高校生の活動場所の提供

・市民センターの活用を考える。 ホールを図書館的な場所として利用する。

司書的担当者の配置を考える。(ボランティア) 試験的に夏休みに実施(9:00~18:00)

・中学校用地に個人スポーツ施設(テニス) (例中学生を対象にボーリング大会)

テーマ6 「皆で支え合う地域コミュニティの活発な町」

住民が地域の一員としての自覚を持ち、お互いが支えあう町とするには、住民同士の絆を強めることが必要です。そのためには、住民同士が個々に、お互いを知り合う機会やそのための場所・情報の提供を充実していくことが重要と考えます。

1) たまり場づくり

身近で、気楽に且つ居心地のよい“たまり場”を目指し、既存の施設や広場の有効活用と機能向上を図るとともに、必要に応じて、新規の設備も考慮していく。

2) ふれあいの機会

既存の事業や行事に住民の関心と、参加したいという意欲を高める為の工夫をし、手作り、自主的活動の拡大を図っていく。

3) 組織の活性化

組織は人の和があつてこそその機能を発揮し活性化します。年代を超え、知り合うことで、次代を担う新たな人材の発掘と育成を可能にし、永続的地域活動に繋いでいく。

4) 地域情報の発信

身近な微笑ましい話、わが町にこの人あり、それは私です、等々、褒め称える心を大事にした話題をミニコミ版で発信し、地域を自画自賛し、明るく、楽しくしていく。